

沖縄市民平和の日

戦後75年を節目に

沖縄市民平和の日を考える

第2次世界大戦末期の1945(昭和20)年9月7日、旧越來村森根(現在の嘉手納基地内沖縄市域)で米軍と南西諸島の日本守備軍との間で降伏調印式が行われ、公式に沖縄戦が終結しました。

沖縄市では、沖縄戦終結の9月7日を平和に向けた新たな第一歩を踏み出した日として、平成5年に沖縄市民平和の日を定める条例を制定しました。制定から27年、今度「平和」について考えてみませんか。



降伏文書に調印しているスティルウェル大将
(沖縄県公文書館所蔵)

平和とは

あなたが考える平和とは何ですか？

「戦争のないこと」「みんなが仲良く笑顔で暮らすこと」「おいしいごはんが食べれること」「悩みのないこと」、人によって、イメージはそれぞれではないでしょうか。

なぜ、争いや差別は起るのでしょうか。私たちの住むこの地球には、異なる文化や言葉を持つ人々が住んでおり、抱える問題も異なります。相手との違いを認め合い、思いやりの心を持つことは、とても大事なことです。

沖縄市では、「平和とは、単に戦争のない状態をいうのではない。わたしたちの街から差別をなくし、弱い立場にある人々を社会の一員として大切にすること。小さな子どもからお年寄りまで、障がいのある人もない人も、すべての人は人として存在が尊ばれ、自由平等であり、あらゆる危険から守られる。そして、ゆとりある豊かな生活が保障され、互いに信頼しあい助け合って行ける地域環境である。」と考えています。

沖縄市民平和の日を定める条例

沖縄市民平和の日を定める条例では、国内で唯一地上戦が行われた第二次世界大戦の教訓とそれに続く施政権分離下の生活体験を踏まえ、すべてのものを壊滅する戦争を繰り返さないとする市民の総意に基づき、「日本国憲法」と「核兵器廃絶平和都市宣言」の理念の下に、すべての人が等しく平和で豊かな生活がおくれるまちづくりを進めるために、9月7日を沖縄市民平和の日と定めております。

また、毎年8月1日から9月7日までを平和月間と定め、戦争の記憶を風化させることなく、未来へ伝えていくために、平和に関する様々な事業を実施しています。

平和への取組

日常生活で平和について意識したことはありませんか？

今ある平和を守るために、平和な未来を創るために、あなたが今日からできることを考えてみませんか。

沖縄市の平和への取組が、平和について考えるきっかけになることを願っています。



沖縄市の平和への取組



2017 沖縄市民平和の日記念行事「折り鶴プロジェクト」



沖縄市民平和の日記念行事

毎年、9月7日の沖縄市民平和の日には記念行事を開催し、市民一人ひとりが平和について考える機会の創出を図っています。平成29年度の「折り鶴プロジェクト」では、最も長い折り紙レイを目指して、ギネスに挑戦し、記録を達成しました。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、集客を行わず、沖縄市平和学習コンテンツサイトで動画配信を行います。



2019 沖縄市平和大使(県外研修にて)



沖縄市平和大使

戦後75年が経過する中で、戦争体験者の高齢化により“語り部”が年々少なくなっています。沖縄市では平和な21世紀を創造する人材の育成を目的に、平成3年より毎年、沖縄市平和大使を育成しています。沖縄市内各中学校より推薦を受けた中学生大使と公募により選ばれた社会人大使は、研修で沖縄の歴史や文化、沖縄戦や原爆の実相を学びます。研修を通して戦争の悲惨さ、命の尊さ、平和の大切さを学び、沖縄戦の悲惨な経験や教訓を次世代へ継承していきます。

平和大使ソングである「時代(とき)の語り部」は、本市職員が作詞・作曲した恒久平和への願いを後世へ伝えていくための歌です。沖縄市平和大使は、イベントや平和交流先で、手話を交えて歌を披露しながら「平和」を広く発信しています。



平和大使ソング「時代(とき)の語り部」

作詞・作曲 仲真良英

生まれる時代をもしも 選べるのなら
また この時代に 生まれてみたい
永遠に平和な日々と 命の尊さ
大空のキャンバスに 自由に描くために
癒えぬ 心の傷は 消えることはないけど
過去を 忘れずに 明日を見つめて
飛び立とう その羽で 希望という未来へ
限りある 時間の中 時代の語り部として
～抜粋～



2018 沖縄市平和大使(沖縄市民平和の日記念行事)

Youtubeで手話解説つき動画を配信しています。



平和学習コンテンツサイト



平和学習コンテンツサイト

沖縄市における沖縄戦、平和大使の活動、体験者講話など、沖縄市の平和の取組がわかる・学べるサイトになっています。デジタル紙芝居「沖縄戦」は、県内外の学校で、平和学習に活用されています。

平和学習コンテンツサイト
QRコード





嘉手納基地内にある降伏調印式の碑(2019年撮影)

降伏調印式の碑

1945年9月7日、旧越來村森根(現在の嘉手納基地内沖縄市域)で米軍と南西諸島の日本守備軍との間で降伏調印式が行われました。

その場所は、ピースガーデンと呼ばれ、その一画に降伏調印式の碑が建てられています。碑には「永遠なる平和と世界の全人類の間における理解の重要性のために」という恒久平和の願いが刻まれています。

平和月間の企画展

8月1日から9月7日まで平和月間です。

平和月間では、本市主催の「市民の眼・平和写真展」や「平和を願う千羽鶴展」、市民団体による賛同企画として「石川・宮森小ジェット機墜落事故写真展」や「原爆と戦争展」などを開催しています。

また、沖縄市戦後文化資料展示館ヒストリート、図書館、市内各児童館等において、平和について考える様々な展示、催しが行われます。



平和ロゴコンクール

今年度は沖縄戦終結から75年、核兵器廃絶平和都市宣言から35年の節目の年です。市民一人ひとりが平和について向き合い、考え、平和への願いを未来へ繋いでいくことを目的に、平和ロゴコンクールを開催しました。

市内外問わずどなたでも参加できる本コンクールには、実に146作品もの応募がありました。特に18歳以下の子どもたちの応募が127作品もあったことは嬉しいことであり、平和の願いは未来へ繋がっていることを確信しました。



沖縄市平和イメージキャラクターソテツの妖精「キューナ」

ソテツの妖精キューナは、沖縄戦が終わった9月7日をみんなに知ってもらうために、沖縄市の森根(嘉手納基地内)にある降伏調印式の碑(ピースガーデン)から出てきています。

キューナのプロフィール

名前: キューナ
 誕生日: 9月7日
 お友達: エイ坊、おきはくん
 出身: 沖縄市森根(嘉手納基地内)



フェイスブックで新型コロナウイルスの感染拡大防止をアピールするキューナ

私たちが繋ぐ平和への想い～平和大使研修に参加して～



山形県米沢市との交流(平成30年度)

戦争は起きないと思っていても起きるもので、日ごろから使っている言葉や行動の一つ一つが戦争への一歩になってしまうのです。戦争を起こさないための努力をしなければならないということを学びました。

(平成30年度 中学生大使)

被爆体験者講話を聞いて一番印象に残ったのは、「生きてよかったあ、戦争なんてするもんじゃあないですわあ。」という言葉です。目に涙を浮かべながら言っていました。私たちは今回、被爆者の方々から戦争を語り継ぐこと、平和を紡ぐことを託されました。これから身近な人に話すことでも託された思いを果たすことができると思います。近い将来だけでなく、その先で平和が当たり前になるよう行動します。

(平成30年度 中学生大使)



首里城公園内の戦跡見学(令和元年度)

学校では学べない大切なことをたくさん学ぶ事ができました。この研修で学んだ事を周りに伝えていき平和な世の中にしていきたいです。

(令和元年度 中学生大使)



沖縄市戦跡巡りにて(平成30年度)

僕達平和大使は平和を願うのではなく平和を作っていくためにあるのでこれからも平和を伝えていく活動をしたいです。

(令和元年度 中学生大使)

研修を通して、いろんなことを学びました。今度は学んだ事を伝える側として友達とかいろんな人に伝えていきたいです。

(令和元年度 中学生大使)

平和大使の活動では、意見を求められることが多く、理由をもって意見を言うことができたようになった。これは平和大使としての活動があってこそ得られたものです。

(平成30年度 中学生大使)



沖縄の歴史と文化について学ぶ大使(令和元年度)

私は平和大使になるまで何十万人、何百万人という死傷者や被害者のことをかたちとしてしか見る事ができませんでした。ですが平和大使になってその一人ひとりに私たちと同じように生活があったことや一人ひとりが私たちのように生きていたことを深く知る事ができました。このことや戦争の恐ろしさや平和の大切さを子どもや孫、未来に伝えられるような人になりたいです。

(平成30年度 中学生大使)

沖縄戦では今の僕と同じ年齢でも戦争に参加させられ、時代が変わってれば僕も戦争に参加させられていた状況だったということに驚きました。次の時を担う私たちに、「戦争を二度と起こしてはいけない」と伝えるため、講師の方が熱く語っていたのが印象的でした。僕たち平和大使が自分のこととして考えることが次に繋がっていくという事も十分理解できました。

(令和元年度 中学生大使)



平和への想いを書いた灯ろうと(平成30年度)



南部宿泊研修にて(令和元年度)